学力分析レポート

学力の総合評価

今回の得点は 35 点／100 点でした。問題全体の難易度は標準的であり、現時点では 60 点前後、すなわち 6 割程度を目標得点として取りたかったところです。今回の答案を通して最も大きな課題として見えたのは、各大問に共通して計算ミスや符号処理の誤りが多いことです。一方で、まったく方針が立っていないというよりは、着眼自体は悪くない場面も多く、途中の処理精度によって得点を落としている印象が強くありました。そのため、現状は「解法知識が極端に不足している段階」というより、「典型問題を得点に変える精度と処理速度が不足している段階」と評価できます。

確実に合格ボーダーを越えるためには、解法を思いつくだけでは不十分であり、典型問題

大問ごとの定着度と弱点

第 1 問

第２問

この問題は複素数平面の軌跡に関する問題でした。複素数平面は一見難しく見えやすい分野ですが、実際の入試では処理の型が比較的はっきりしており、典型パターンを押さえているかどうかがそのまま得点に反映されやすい単元です。

(1)は計算問題として素直に処理できており、ここは問題ありません。基本的な計算を安定して合わせられている点は評価できます。

(2)も本質的には計算問題ですが、移項の際の符号処理に誤りがあり、もったいない失点になっています。このレベルのミスは、知識不足というより、途中式の整理不足と確認不足によって生じることが多いです。受験数学においては「解法が分かっているのに落と

第 3 問

第 4 問

志望大学との差について

現状の基礎学力について

今後の学習方針

今後の学習では、まず網羅系参考書を用いて各単元の典型問題を確実に定着させ、全統模試レベルで偏差値 60 を安定して取れる状態を目指しましょう。現状の学力を踏まえると、使用教材のレベルとしては『基礎問題精講』から『標準問題精講』、あるいはチャート式などの網羅型参考書が適しています。焦って参考書のレベルを次々と引き上げるのではなく、「自力で完答できる問題の割合」を着実に増やしていくことが、現段階で最も重要なポイントです。

基本的な公式や定義は比較的身についている前提があるため、現在の演習の進め方として

合格に向けた総括